

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像
豊かな心を持ち、自分の良さを知り、人とつながり共同する子

堺市立 南八下小 学校
校長 木嶋 美雪

令和7年度 重点目標

楽学の実現：社会の一員として「今の自分にできること」を考えながら探究できる児童の育成

- ①楽学Spirits - 学び続ける・共に学ぶ・学びを楽しむ
②学びの3つの柱 - チャレンジする楽しさ(個別最適な学び)・夢中になる楽しさ(探究活動)・他者と協働する楽しさ(協働的な学習)

確かな学びの現状

学びのコンパスを意識した探究的な学びが定着しつつある。各単元での課題解決のため、見方考え方を働かせ、自分で探究できるようになってきている。また、学び方に対しても自ら振り返り自己調整できる様子がうかがえるようになってきた。課題としては、各教科での学びが生活の中のように結びついていないか、体験しながら学びを深めることが必要。また、基礎学力の部分で読解力、計算力、情報活用能力の意識的な育成は引き続き取り組む必要性を感じている。

豊かな心・健やかな体の現状

楽学の実現を目指し、学級の中ではクラスを良くするための会社活動や、児童会活動で児童が主体的に取り組む姿が見えてきた。あいさつを学期の目標として啓発することで、個々で挨拶ができる児童が増えていると感じる。人権教育では特にジェンダーバイアスに重点を置き、登校帽子や集会時の並び方、更にはPTA役員などにおいても性別で分けることを廃止した。児童のけがによる保健室の来室数が増えている。体力向上と併せて、引き続きけがの未然防止、また重症化しないような対応を考えて行く必要があると感じる。登校渋り等、家庭との連携を継続する。

Table with 10 columns: 大項目, 中項目, 具体目標, 具体的な取組, 判断基準, 評価方法, 評価時期, 進捗確認, 達成状況(年度末), 自己評価, 学校関係者評価. Rows include 基礎学力, 探究活動, 豊かな心・健やかな体, 体力向上, 地域との連携.

校長より(年度末)

学びの現状として、学びを生活に生かすことが自然にできるカリキュラムの中で、児童の探究心を引き出す場面が増えてきたと感じている。学力調査では算数に課題は残るものの、個別最適な学びを進める中で、自分のつまづきを自ら解決し、考えながら取り組む姿が見られる。また、豊かな心・健やかな体の面では、学校を楽しい場所にするために、今できることを考えて行動する児童が増えてきた。低学年を思いやる高学年の姿など、相手を意識した行動も多く見られる。一方で、あいさつや帽子・名札の着用など、学校生活のルールの定着には課題が残る。今後は、指示による徹底ではなく、自主性を育てる指導を一層推進していきたい。

学校関係者評価者から(年度末)

総体的に見て、学校は非常によく取り組んでいると感じる。時代の変化にともない、家庭や児童を取り巻く課題も多様化しているが、この地域は落ち着いた環境が保たれており、子どもたちも穏やかに過ごしている。大きな問題が生じることなく日々の学校生活を送れていることを嬉しく思う。また、困っている人を助けるなど、地域で話題になるような温かい行動が自然とできる児童が育っていることは、この地域の良さの表れである。今後も、地域と学校が連携しながら、子どもたちの成長を温かく見守ってきたい。